

# 五輪強化拠点で床剥離 大けが

6/15(木) 14:03 掲載

味の素トレセンでバレー選手大けが＝床板刺さり 30 針—JSC

東京都北区の味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）で今月、日本バレーボール協会が行っていたジュニア選手の強化合宿中に、剥がれた床板が男子選手の右太ももに刺さって大けがをする事故があった。日本スポーツ振興センター（JSC）が 15 日、発表した。選手は約 30 針縫い、全治 1 カ月程度の見込み。五輪選手の強化拠点になっている NTC でこのような事故はこれまでなかったという。（時事通信）

## 体育館、水拭きはしないで はがれた床材が刺さる事故も

朝日新聞デジタル 5/29(月) 20:22 配信



体育館で大けがする事例

体育館でバレーボールなどをプレーし、床に滑り込んだ際にはがれかけた床板が体に刺さって大けがをした事故が、約 10 年間で 7 件あったことがわかった。消費者庁の消費者安全調査委員会（消費者事故調）は 29 日、床が水分の吸収と乾燥を繰り返したことで床材がはがれた可能性があるとの調査報告書を公表し、床の水拭きをしないよう呼びかけた。

【写真】 危ない！ 調査で確認された床のはがれ

報告書によると、2006～15 年にあった大けがの事故は 7 件（1 件は発生年が不明）で、うち 6 件はバレーボール中の事故。13 年には部活動中のレシーブの練習で、床に滑り込んだ生徒の腹部にはがれていた床の一部が刺さった。胃や腸を貫通し、手術で摘出した木片は全長が 34 センチに達し、27 日間入院したという。フットサルのキーパーをしていた学生が、ボールを奪おうと背面で滑り込んだところ、肩から刺さった木片が肺を貫通した事故もあった。

事故調によると、事故があった体育館は床が湿気や雨漏りでぬれたり、水拭きやワックス掛けがされたりしていた。古いワックスを洗い落とす作業では水を使う。床板は水分の吸収や乾燥を繰り返すことで、損傷や板割れが生じてはがれる可能性がある。このため、「清掃の際には原則として水拭きをするべきではない。水拭きをする場合は、回く絞って」などと注意を促している。

また事故調は文部科学省に対し、事故のリスクや維持管理の重要性を体育館の所有者らに周知するよう求めた。公立学校や公共体育館を対象に 16 年に実施したアンケートでは、学校と公共の体育館それぞれ 5% で日常的に水拭きをしていたという。（末崎毅）

